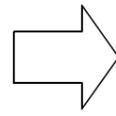


# 農林水産統計第1報（速報）の改善（案）

第1報（速報）は、調査結果を迅速に公表すると同時に、内容についてもわかりやすく、さらに要因や背景などの関連情報についても併せて提供するなど、フルセットの情報が提供できるよう改善する。



この改善により、行政、関係機関等直接的に利用するユーザーの理解度、利用度の向上を図るとともに、間接的には新聞、TV等のマスコミへの露出度を高め、さらなる利用普及を図る。

現 状 の 問 題 点	改 善 の 考 え 方
<p>【タイトル、見出し、調査結果の概要】のページ . . . 当該調査結果の全体を概観できることを目的に作成。</p>	
<p>① 国が行っている農林水産に関する統計であることを明確にする必要がある。                  ② 特徴を端的に表した見出しとなっていない。                  ③ 調査によっては複数ページに概要が記載されており、概要を一見できない。                  ④ 前年との増減比較など事実を淡々と解説している場合が多く、要因や背景に関する情報が記載されていない。                  ⑤ 統計表が使われているため、一見して特徴をつかみにくい。                  ⑥ 政策的な利用を前提とした構成や表現を採用しているため、専門用語を使用している。</p>	<p><b>○どこが作成したどんな内容をトップページを閲覧するだけでほぼ理解できるよう改善する。</b></p> <p>① ロゴマークの「農林水産統計」を大きくするなどし、「農林水産省」の統計調査であることを明確化する。                  ② 見出しは、特徴的な事項を簡潔に記載する。                  ③ 原則1ページ以内とする。                  ④ 変化の要因となった事情を記載。ポイントとなる部分については下線を引き強調。</p> <p>⑤ 統計表に変えて、一見してわかる統計グラフの使用を原則とする。                  ⑥ 統計用語・専門用語については、用語解説を記載。                  ⑦ 本文中に使用したグラフ及び統計表（Excelファイル形式）について、ホームページにおける所在案内（アドレス）を掲載する。                  ⑧ 調査の目的、対象、調査方法等を説明した「調査の仕様」への誘導を図る。</p>
<p>【解説】のページ . . . 当該調査結果の主要項目を中心に、それぞれの動向やその要因等を解説することを目的に作成。</p>	
<p>① 詳細な増減要因等が記載されていない場合がある。                  ② 説明に使用した統計データの掲載ページをすぐに参照できない。                  ③ 政策的な利用を前提とした構成や表現を採用しているため、専門用語を使用している。</p>	<p><b>○調査結果の時系列にみた動向や前年との増減要因等を記載し、数値だけでは読み取れない内容について補完する。</b></p> <p>① 文章は結論部分から言及し、増減した要因や背景等については客観性のある周辺情報等を具体的に記載する。                  ② 解説を行った統計データの掲載ページ等を記載し、統計データへのスムーズな誘導を図る。                  ③ 使用した統計用語・専門用語については、用語解説を記載。                  ④ 表はできるだけ見やすいスタイルに改善する。</p>
<p>【統計表】のページ . . . 当該調査結果を利用する上で注意が必要な事項及び調査結果を掲載。</p>	
<p>① 統計表は数十ページとなる場合があり、目的の統計データを探し出すことが難しい。                  ② 統計表中で使用する記号の説明は巻末の「利用上の注意」のページにしか記載されていないため、統計表をみた後で確認することになる。</p>	<p><b>○中とびら（目次）ページを入れることにより、目的とする統計データを迅速に探し出せるように改善する。また、統計表の見方等を記載する。</b></p> <p>① 統計表の前ページに、中とびら（目次）を追加。                  ② 統計の表章方法であるラウンド（四捨五入）の説明と表中で使用している記号の説明を記載。                  ③ 統計表については、見やすいスタイルに改善する。</p>
<p>【関連するデータ、情報】のページ . . . 当該調査結果に関連する情報を掲載し、要因等の背景を補完することを目的に作成。</p>	
<p>① 当該調査結果についてのみの掲載であり、関連する情報や、背景（影響した事項）等が掲載していないため、断片的な情報となり全般的な情勢等が分かりにくい。</p>	<p><b>○累年の統計データ、関連統計データなど関連する情報もあわせて掲載することにより、数値変動についての背景等を補完する。</b></p> <p>① 関連して問い合わせの多い統計データ等は必ず記載する。また、掲載した関連データは、統計調査名等を必ず記載する。                  ② 統計結果に関連する周辺情報の記載。（例えば、生産量調査においては、市場における価格推移、輸入数量、気象の状況など。）</p>
<p>【調査の仕様、問い合わせ先】のページ . . . 当該調査の調査の目的や、調査期間、目標（実績）精度など、基本となる調査の仕様や、問い合わせ先を掲載。</p>	
<p>① 調査対象や調査期間、調査方法、調査客体、集計方法など必要とする情報が統一的に記載されていない。                  ② 当該統計調査結果のホームページにおける掲載場所は記載されているものの、誘導が不十分である。                  ③ 問い合わせ先は、利用上の注意とあわせて記載されており、問い合わせ先を見つけづらい。また、当該調査の問い合わせ窓口だけでなく、公表予定や統計調査全般に関する問い合わせができない。                  ④ 関連する情報についての所在案内等が掲載されていない。</p>	<p><b>○調査の目的や調査対象、調査期間、目標（実績）精度など調査自体の仕様について積極的に開示する。また、問い合わせ先は、最終ページに記載し、ユーザーがスムーズに問い合わせできるようにする。</b></p> <p>① 記載事項は、(1) 調査の目的、(2) 調査対象、(3) 調査期間、(4) 調査方法、(5) 調査客体数、(6) 集計方法、(7) 計算式、(8) 目標（実績）精度、(9) 農業地域等の区分、(10) 用語の解説を基本型とする。                  ② 農林水産省ホームページにおける所在案内（アドレス）を掲載する。                  ③ 掲載ページは最終ページとし、問い合わせへの対応を強化するため、当該調査の問い合わせ窓口のみならず、統計調査全般に関する窓口も付記する。                  ④ 当該調査結果に関連する施策のホームページアドレスや、関連統計データとして掲載したホームページアドレスなどを記載する。</p>

## 改善（案）

### 1. タイトル、見出し、調査結果の概要

- ① ロゴマークの「農林水産統計」を大きくするなどし、「農林水産省」の統計調査であることを明確化する。
- ② 見出しは、特徴的な事項を簡潔に記載する。
- ③ 原則1ページ以内とする。
- ④ 変化の要因となった事情を記載。ポイントとなる部分については下線を引き強調。
- ⑤ 統計表に変えて、一見してわかる統計グラフの使用を原則とする。
- ⑥ 統計用語・専門用語については、用語解説を記載。
- ⑦ 本文中に使用したグラフ及び統計表(Excelファイル形式)について、ホームページにおける所在案内(アドレス)を掲載する。
- ⑧ 調査の目的、対象、調査方法等を説明した「調査の仕様」への誘導を図る。

# 農林水産統計

Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries

農林水産省 大臣官房統計部

平成17年2月3日公表

## 平成16年産西洋なし、かき、くりの収穫量及び出荷量

—平成16年産西洋なしの収穫量は、台風の影響から3割減少—

### 【調査結果の概要】

#### 1 西洋なし

平成16年産の収穫量は2万3,900tで、山形県等で相次ぐ台風の影響により落果や傷果が多かったことから、前年産に比べて9,900t（前年産対比29%）減少した。

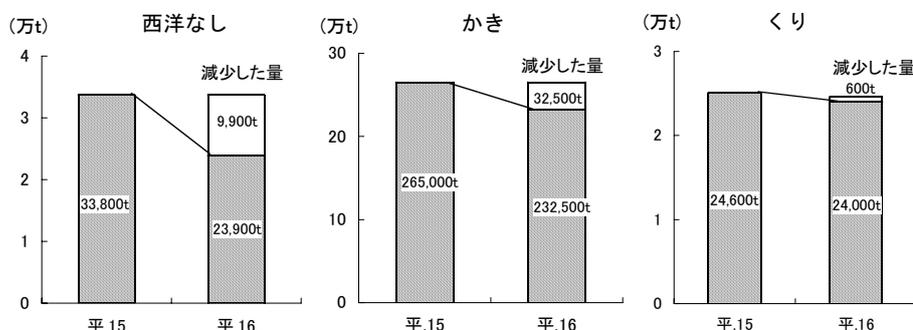
#### 2 かき

平成16年産の収穫量は23万2,500tで、老木園の廃園による結果樹面積の減少や、福岡県等で相次ぐ台風の影響により落果や傷果が多かったことから、前年産に比べて3万2,500t（同12%）減少した。

#### 3 くり

平成16年産の収穫量は2万4,000tで、老木園の廃園による結果樹面積の減少や熊本県等で相次ぐ台風の影響により落きゅう（毬）が多かったことから、前年産に比べて600t（同3%）減少した。

図1 西洋なし、かき、くりの収穫量の前年比較（全国）



○収穫量とは、収穫したもののうち、生食用、加工用の商品として流通する基準を満たすものの重量をいう。

この統計調査結果で使用しているグラフ及び統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。  
【<http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/seiyounashi2004/seiyounashi2004.xls>】

この統計調査における調査目的、調査対象や目標(実績)精度などは、【調査の仕様】18Pに掲載しています。

# 現 状

## 1. タイトル、見出し、調査結果の概要

### 農林水産統計 農林水産省大臣官房統計部

Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries

平成17年 2月 3日公表

## 平成16年産西洋なし、かき、くりの収穫量及び出荷量

果樹の調査は周期年で全国調査を実施しており、本年産は全国調査年に当たることから、全国値は各都道府県の値を加算したものである。一方、前年産の全国値については、主産県調査の結果から前回の全国調査実施年（平成9年産）の結果を基に推計したものである。このため、本年産と前年産の全国値には、集計方法の相違による差が生じることがある。

### 【調査結果の概要】

#### －台風の影響から収穫量及び出荷量は共に減少－

#### 1 西洋なし

西洋なしの収穫量は2万3,900t、出荷量は2万800tで、前年産に比べてそれぞれ9,900t（前年産対比29%）、9,200t（同30%）減少した。

#### 2 かき

かきの収穫量は23万2,500t、出荷量は18万5,000tで、前年産に比べてそれぞれ3万2,500t（同12%）、2万7,800t（同13%）減少した。

#### 3 くり

くりの収穫量は2万4,000t、出荷量は1万6,600tで、前年産に比べてそれぞれ600t（同3%）、900t（同5%）減少した。

表1 結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量（全国）

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
西洋なし	1 730	1 380	23 900	20 800	100	71	71	70
かき	23 800	976	232 500	185 000	98	90	88	87
くり	24 300	99	24 000	16 600	96	101	97	95

# 改善（案）

## 2. 解説

- ① 文章は結論部分から言及し、増減した要因や背景等については客観性のある周辺情報等を具体的に記載する。
- ② 解説を行った統計データの掲載ページ等を記載し、統計データへのスムーズな誘導を図る。
- ③ 使用した統計用語・専門用語については、用語解説を記載。
- ④ 表はできるだけ見やすいスタイルに改善する。例えば実数はゴシック体、割合は明朝体にすることや、1行ごとにメッシュをつけるなど、できるだけ見やすいスタイルに変更する。

### 【解説】

#### 1 西洋なし

西洋なしの収穫量は近年増加傾向で推移していたが、平成16年産収穫量は2万3,900t、出荷量は2万800tで、前年産に比べてそれぞれ9,900t（前年産対比29%）、9,200t（同30%）減少した。（詳細は、統計表5P参照）

- (1) 結果樹面積は1,730haで、前年産並みとなった。
- (2) 10a当たり収量は1,380kgで、山形県等で相次ぐ台風により落果や傷果が多かったこと等から、前年産に比べて29%下回った。
- (3) 収穫量の府県別割合をみると、山形県が全国の62%、長野県が10%、青森県が7%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。  
また、品目別では、収穫量の約7割をラ・フランスが占めており、その多くが山形県で生産されている。また、パートレット等の新興品種は、青森県や北海道等で多く生産されている。（詳細は、統計表6P、8P参照）

図2 西洋なしの結果樹面積及び収穫量の推移

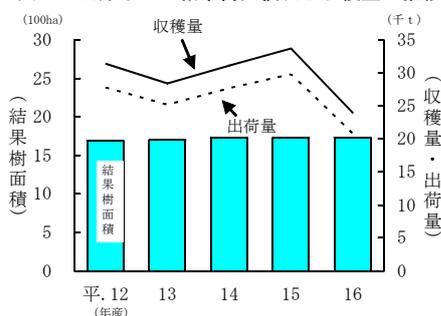


図3 西洋なしの収穫量の府県別割合

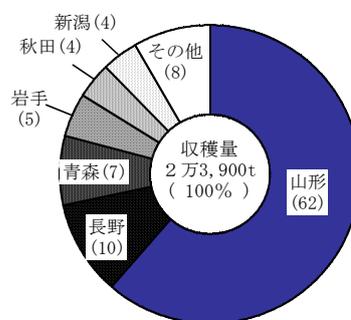


表1 西洋なしの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量（全国）

品目・品種	結果樹面積 ha	10a当たり収量 kg	収穫量		出荷量 t	前年産対比 (%)			
			t	シェア %		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
西洋なし	1 730	1 380	23 900	100	20 800	100	71	71	70
ラ・フランス	1 130	1 480	16 600	69	14 700	100	69	69	69
パートレット	154	1 190	1 830	8	1 590	103	90	93	92
マックス・レッド・パートレット	21	1 390	291	1	279	...	...	...	...
その他	430	1 190	5 110	21	4 290	...	...	...	...

注：「マックス・レッド・パートレット」については、前年産の全国値を推計していないため、前年産対比を行っていない。  
また、「その他」については、16年産から「マックス・レッド・パートレット」を除いたため、前年産対比を行っていない。

○結果樹面積とは、農家が当該年産の収穫のために、結実させた果樹の栽培面積をいう。  
○出荷量とは、収穫量から収穫後の減耗（例えば、腐敗など）や、生産者の自家消費量、贈与した量等を差し引いた重量をいう。

# 現 状

## 2. 解説

### 【解説】

#### 1 西洋なし

西洋なしの収穫量は2万3,900t、出荷量は2万800tで、前年産に比べてそれぞれ9,900t（前年産対比29%）、9,200t（同30%）減少した。

- (1) 結果樹面積は1,730haで、前年産並みとなった。
- (2) 10a当たり収量は1,380kgで、山形県等で相次ぐ台風により落果や傷果が多かったこと等から、前年産に比べて29%下回った。
- (3) 収穫量の府県別割合をみると、山形県が全国の62%、長野県が10%、青森県が7%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図1 西洋なしの結果樹面積及び収穫量の推移

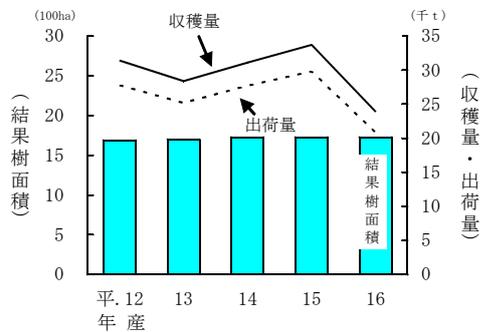


図2 西洋なしの収穫量の府県別割合

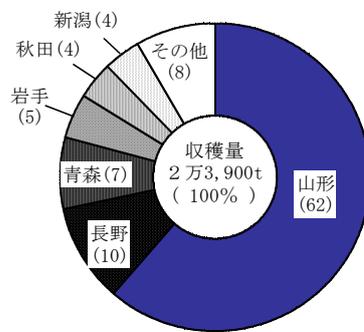


表2 西洋なしの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量（全国）

品目・品種	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	シェア	出荷量	前年産対比			
						結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
西洋なし	1 730	1 380	23 900	100	20 800	100	71	71	70
ラ・フランス	1 130	1 480	16 600	69	14 700	100	69	69	69
バートレット	154	1 190	1 830	8	1 590	103	90	93	92
マックス・レッド・バートレット	21	1 390	291	1	279	...	...	...	...
その他	430	1 190	5 110	21	4 290	...	...	...	...

注：「マックス・レッド・バートレット」については、前年産の全国値を推計していないため、前年産対比を行っていない。  
また、「その他」については、16年産から「マックス・レッド・バートレット」を除いたため、前年産対比を行っていない。

## 改善（案）

### 3. 統計表

- ① 統計表の前ページに、中とびら（目次）を追加。（統計表ページが少ない場合は目次部分の省略可）
- ② 統計の表章方法であるラウンド（四捨五入）の説明と表中で使用している記号の説明を記載。

## 統計表

### 【目次】

1 西洋なし（都道府県別結果樹面積、10a当たり収量、収穫量、出荷量）	
(1) 計	… 5P
(2) ラ・フランス	… 6P
(3) パートレット	… 7P
(4) マックス・レッド・パートレット	… 8P
(5) その他	… 9P
2 かき（都道府県別結果樹面積、10a当たり収量、収穫量、出荷量）	
(1) 計	… 10P
(2) 富有	… 11P
(3) 次郎	… 12P
(4) 西村早生	… 13P
(5) その他甘がき	… 14P
(6) 平核無	… 15P
(7) 刀根早生	… 16P
(8) その他渋がき	… 17P
3 くり（都道府県別結果樹面積、10a当たり収量、収穫量、出荷量）	
(1) 計	… 18P
4 関連するデータ、情報	
1 累年表	… 19P
2 単価の動向	… 19P
3 台風の経路図	… 19P

### 【統計表の見方等】

- 1 統計数値については、下表の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数 (下から)	2けた		1けた	四捨五入しない
例 四捨五入する前	123 456	12 345	1 234	123
四捨五入した数値	123 500	12 300	1 230	123

- 2 表中に用いた記号は以下のとおりである。  
「0」・・・単位に満たないもの（例：0.4ha→0ha）  
「-」・・・調査は行ったが、事実のないもの  
「…」・・・調査を行っていないもの

## 現 状

### 3. 統計表

- ・ 現行は、統一的な基準を設定しておらず、各担当係の判断に任せていることから、数十ページ渡る統計表であっても、中とびらを入れて統計表の目次を掲載しているのは一部に限られている。

## 改善（案）

### 3. 統計表

- ① 統計表については、見やすいスタイルに改善する。例えば実数はゴシック体、割合は明朝体にすることや、1行ごとにメッシュをつけるなど、できるだけ見やすいスタイルに変更する。
- ② 統計表の単位の表示については、一定の基準を定め表示する。

【統計表】

1 西洋なし  
(1) 計

全 国 都 道 府 県	結果樹面積 ha	10a当たり 収 量 kg	収穫量 t	出荷量 t	前 年 産 対 比 (%)			
					結果樹 面 積	10a当たり 収 量	収穫量	出荷量
全 国	1 730	1 380	23 900	20 800	100	71	71	70
北 海 道	79	877	693	603	...	...	...	...
青 森	156	1 120	1 750	1 300	99	90	90	89
岩 手	83	1 370	1 130	985	83	104	86	86
宮 城	7	1 270	93	73	...	...	...	...
秋 田	87	1 090	954	873	...	...	...	...
山 形	1 010	1 460	14 700	13 000	100	68	68	68
福 島	52	1 570	809	717	...	...	...	...
茨 城	2	545	12	10	...	...	...	...
栃 木	5	882	45	28	...	...	...	...
群 馬	4	643	27	24	...	...	...	...
埼 玉	1	583	7	7	...	...	...	...
千 葉	-	-	-	-	-	-	-	-
東 京	-	-	-	-	-	-	-	-
神 奈 川	0	...	1	1	...	...	...	...
新 潟	89	1 050	933	782	...	...	...	...
富 山	4	85	3	0	...	...	...	...
石 川	0	...	2	1	...	...	...	...
福 井	0	...	0	0	...	...	...	...
山 梨	3	2 390	77	71	...	...	...	...
長 野	136	1 810	2 460	2 250	99	85	84	84
岐 阜	3	1 130	34	29	...	...	...	...
静 岡	-	-	-	-	-	-	-	-
愛 知	-	-	-	-	-	-	-	-
三 重	0	...	0	0	...	...	...	...
滋 賀	-	-	-	-	-	-	-	-
京 都	0	...	0	0	...	...	...	...
大 阪	-	-	-	-	-	-	-	-
兵 庫	-	-	-	-	-	-	-	-
奈 良	0	...	1	0	...	...	...	...
和 歌 山	0	...	0	0	...	...	...	...
鳥 取	0	...	8	8	...	...	...	...
島 根	0	...	0	0	...	...	...	...
岡 山	7	1 010	71	54	...	...	...	...
広 島	3	1 010	35	35	...	...	...	...
山 口	-	-	-	-	-	-	-	-
徳 島	-	-	-	-	-	-	-	-
香 川	-	-	-	-	-	-	-	-
愛 媛	-	-	-	-	-	-	-	-
高 知	-	-	-	-	-	-	-	-
福 岡	0	...	3	2	...	...	...	...
佐 賀	-	-	-	-	-	-	-	-
長 崎	-	-	-	-	-	-	-	-
熊 本	-	-	-	-	-	-	-	-
大 分	-	-	-	-	-	-	-	-
宮 崎	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿 兒 島	-	-	-	-	-	-	-	-
沖 縄	-	-	-	-	-	-	-	-

注：前年産は主産県調査（青森、岩手、山形、長野）のため、前年産の全国値は、全国調査を行った平成9年産の調査結果に基づき推計している。



# 改善（案）

## 4. 関連するデータ、情報

- ① 関連して問い合わせの多い統計データ等は必ず記載する。また、掲載した関連データは、統計調査名等を必ず記載する。
- ② 統計結果に関連する周辺情報の記載。（例えば、生産量調査においては市場における価格推移、輸入数量、気象の状況など。）

### 【関連するデータ、情報】

#### 1. 累年表

(1) 西洋なし

全 国	結果樹面積 ha	収穫量 t	出荷量 t
平成7年(産)	1 240	17 900	15 700
8年(産)	1 380	19 500	16 800
9年(産)	1 480	23 700	20 600
10年(産)	1 560	27 300	23 900
11年(産)	1 630	25 300	22 100
12年(産)	1 690	31 400	27 800
13年(産)	1 700	28 200	25 000
14年(産)	1 730	31 000	27 500
15年(産)	1 730	33 800	30 000
16年(産)	1 730	23 900	20 800

(2) かき

全 国	結果樹面積 ha	収穫量 t	出荷量 t
平成7年(産)	25 800	254 100	203 600
8年(産)	25 500	240 500	193 900
9年(産)	25 300	301 700	243 500
10年(産)	25 100	260 100	208 400
11年(産)	24 900	286 300	231 600
12年(産)	24 700	278 500	224 200
13年(産)	24 500	281 800	227 200
14年(産)	24 500	269 300	217 600
15年(産)	24 400	265 000	212 800
16年(産)	23 800	232 500	185 000

(3) くり

全 国	結果樹面積 ha	収穫量 t	出荷量 t
平成7年(産)	30 100	34 400	25 100
8年(産)	29 200	30 100	21 400
9年(産)	28 300	32 900	23 300
10年(産)	27 500	26 200	18 000
11年(産)	26 900	30 000	21 400
12年(産)	26 400	26 700	18 400
13年(産)	25 900	29 000	20 400
14年(産)	25 600	30 100	21 600
15年(産)	25 300	24 600	17 500
16年(産)	24 300	24 000	16 600

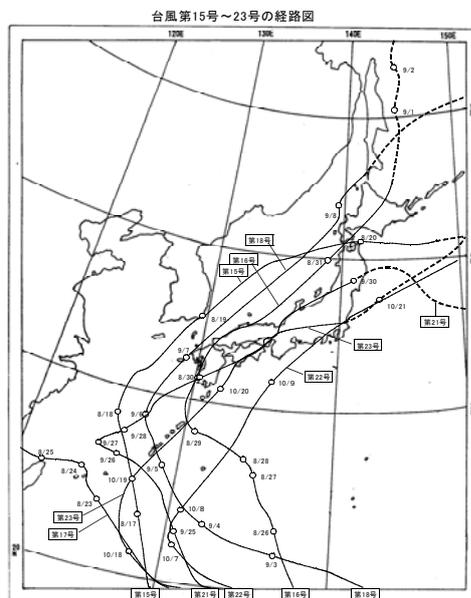
#### 2. 単価の動向

単位：円/kg

	西洋なし	かき	くり
平成7年	195	286	441
8年	223	236	507
9年	253	282	381
10年	270	321	376
11年	311	191	422
12年	317	253	348
13年	264	201	417
14年	313	181	297
15年	302	189	386
16年	344	236	314

資料：青果物卸売市場調査

#### 3. 台風の経路図



資料：気象庁資料から作成した。  
 注：1 経路上の○印は9時の位置であり、数字は日付を示す。  
 2 経路の実線は台風を示し、点線は温帯高気圧の経路を示す。

資料：気象庁の台風経路資料から作成

## 現 状

### 4. 関連するデータ、情報

- ・一部の調査結果において掲載しているのみで、統一的なものとなっていない。



## 改善（案）

### 5. 調査の仕様

- ① 記載事項は、(1)調査の目的、(2)調査対象、(3)調査期間、(4)調査方法、(5)調査客体数、(6)集計方法、(7)計算式、(8)目標（実績）精度、(9)農業地域等の区分、(10)用語の解説を基本型とする。  
なお、正式な調査名称が公表資料のタイトル名となっていない場合は、(1)調査の目的の項において記載する。
- ② 公表数値の性格（概数値で確定値へ変わるもの、概要だけを整理したもの）及び、その詳細（確定値を含む）の取り扱い（報告書の発刊時期）を必ず記載する。

#### 【調査の仕様】

##### 1 調査の目的

本統計調査は、作物統計調査の作況調査・果樹調査として実施したものであり、果樹の結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量の現状とその動向を調査して、生産対策、需給調整・流通改善対策等に関する基礎資料を作成することを目的とする。

##### 2 調査の対象

本調査は、5年に1度の割合で全都道府県を対象とした全国調査を実施し、その中間年においては主産県調査を実施している。主産県調査においては、全国出荷量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県を調査対象（ただし、果樹共済事業実施都道府県については、これに達しないものについても調査対象に含める。）としている。

なお、本年産は全国調査により全国の都道府県を調査対象としている。

##### 3 調査期間

品目及び品種別に、収穫期及び出荷終了後に調査した。

また、本調査における主たる収穫・出荷期間は以下のとおりである。

品目	主たる収穫・出荷期間
西洋なし	平成16年9月～10月
かき	平成16年9月～12月
くり	平成16年8月～10月

##### 4 調査方法

集出荷団体等に対する調査員による面接調査、作況基準筆調査及び作況基準筆調査結果に基づく職員による巡回調査により取りまとめた。

##### 5 調査客体数

集出荷団体等：2,375客体 作況基準筆：332筆 市町村：3,101市町村

##### 6 集計方法

全国値の集計方法は、全国調査年においては、各都道府県の結果を積み上げ集計し、主産県調査中においては、全国調査年における全国値と当該主産県の合計値を基に推計している。

##### 7 目標（実績）精度

本調査は、標本調査ではなく、当該果樹を取り扱う集出荷団体等からの聞き取り調査であることから、目標精度は設定していない。

##### 8 用語の解説

- 結果樹面積とは、農家が当該年産の収穫を意図して結果させた栽培面積をいう。
- 収穫量とは、収穫したもののうち、生食用、加工用の商品として流通する基準を満たすものの重量をいう。
- 出荷量とは、収穫量から収穫後の減耗（例えば、腐敗など）や、生産者の自家消費量、生産物を贈与した量等を差し引いた重量をいう。

- この資料の数値は概数であり、確定値は18年3月に刊行予定の『平成16年産果樹生産出荷統計』に掲載します。

# 現 状

## 5. 利用上の注意

- ・最終ページに掲載。

### 【利用上の注意】

#### 1 調査について

本調査は、周期年で全国調査を実施し、中間年においては主産県調査とし、全国出荷量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県を調査対象（ただし、果樹共済事業実施都道府県については、これに達しないものについても調査対象に含める。）としている。本年産は全国調査により全国の都道府県を調査対象としている。

#### 2 調査方法

集出荷団体に対する面接調査、作況基準筆調査及び作況基準筆調査結果に基づく巡回調査により取りまとめた。

#### 3 結果樹面積とは、農家が当該年産の収穫を意図して結果させた栽培面積をいう。

#### 4 収穫量は栽培し収穫、収納したもののうち、収穫基準を満たすものの重量をいう。

出荷量は収穫量のうち、生食用、加工用として販売したものを出荷台帳等に記入された出荷時点における出荷荷姿の表示数量から把握したものであり、生産者が自家消費した量、生産物を贈与した量等は含まない。

#### 5 この調査の年産区分の主たる収穫・出荷期間は次のとおりである。

品目	主たる収穫・出荷期間
西洋なし	平成16年9月～10月
かき	平成16年9月～12月
くり	平成16年8月～10月

#### 6 統計数値のラウンド方法は次のとおりである。

原 数	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1000)	3けた以下 (100)
ラウンドするけた(下から)	2 けた		1 けた	ラウンド しな い
例				
ラウンドする前(原数)	123 456	12 345	1 234	123
ラウンドした数値(統計数値)	123 500	12 300	1 230	123

#### 7 表中の記号は以下のとおりである。

- 「0」・・・単位に満たないもの
- 「-」・・・事実のないもの
- 「…」・・・事実不詳又は調査を欠くもの

#### 8 この資料の数値は概数であり、確定値は追って刊行する『平成16年産果樹生産出荷統計』に掲載する。

連絡先：農林水産省 大臣官房 統計部  
生産流通消費統計課 園芸統計班  
電 話：(代表) 03(3502)8111 内線2837  
(直通) 03(3591)4604

この資料は、農林水産省ホームページ【<http://www.maff.go.jp/>】  
の「施策の動き・情報 >> 統計データ」で御覧いただけます。

## 改善（案）

### 6. 問い合わせ先

- ① 農林水産省ホームページにおける所在案内(アドレス)を掲載するとともに、分野別分類、品目別分類についても掲載する。
- ② 掲載ページは最終ページとし、問い合わせへの対応を強化するため、当該調査の問い合わせ窓口のみならず、統計調査全般に関する窓口も付記する。
- ③ 当該調査結果に関連する施策のホームページアドレスや、関連統計データとして掲載したホームページアドレスなどを記載する。

- この統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の農林水産統計データに掲載しています。  
【<http://www.maff.go.jp/www/info/index.html>】  
分野別分類は「面積・収穫量(野菜・果樹)」、品目別分類は「果樹」に分類しています。
- この統計の累年データは、農林水産省ホームページ中の農林水産統計総合データベースに掲載しています。【<http://www.tdb.maff.go.jp/toukei/toukei>】

#### 【関連リンク】

果樹関係ページ：農林水産省＞農林水産施策について＞生産  
<http://www.maff.go.jp/seisan.html>  
果樹農業振興基本方針：[http://www.maff.go.jp/www/press/cont2/20050330press\\_8b.pdf](http://www.maff.go.jp/www/press/cont2/20050330press_8b.pdf)  
災害関係ページ：農林水産省＞施策の動き・情報＞災害関連情報  
<http://www.maff.go.jp/soshiki/keiei/keiei-seisaku/saigai-kanren/index.html>  
平成16年青果物卸売市場調査：  
<http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/seikaoroshi2004/seikaoroshi2004.xls>

#### 問い合わせ先

- ◎本統計調査結果について  
連絡先：農林水産省 大臣官房 統計部  
生産流通消費統計課 園芸統計班  
電話：(代表) 03(3502)8111 内線2837  
(直通) 03(3591)4604
- ◎農林水産統計全般について  
連絡先：農林水産省 大臣官房 統計部  
統計企画課 広報普及班  
電話：(代表) 03(3502)8111 内線2675  
(直通) 03(3501)3710

# 現 状

## 6. 問い合わせ先

- ・「利用上の注意」の中に掲載。

### 【利用上の注意】

#### 1 調査について

本調査は、周期年で全国調査を実施し、中間年においては主産県調査とし、全国出荷量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県を調査対象（ただし、果樹共済事業実施都道府県については、これに達しないものについても調査対象に含める。）としている。本年産は全国調査により全国の都道府県を調査対象としている。

#### 2 調査方法

集出荷団体に対する面接調査、作況基準筆調査及び作況基準筆調査結果に基づく巡回調査により取りまとめた。

#### 3 結果樹面積とは、農家が当該年産の収穫を意図して結果させた栽培面積をいう。

4 収穫量は栽培し収穫、収納したもののうち、収穫基準を満たすものの重量をいう。出荷量は収穫量のうち、生食用、加工用として販売したものを出荷台帳等に記入された出荷時点における出荷荷姿の表示数量から把握したものであり、生産者が自家消費した量、生産物を贈与した量等は含まない。

#### 5 この調査の年産区分の主たる収穫・出荷期間は次のとおりである。

品目	主たる収穫・出荷期間
西洋なし	平成16年9月～10月
かき	平成16年9月～12月
くり	平成16年8月～10月

#### 6 統計数値のラウンド方法は次のとおりである。

原 数	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1000)	3けた以下 (100)
ラウンドするけた(下から)	2 けた		1 けた	ラウンド し ない
例				
ラウンドする前(原数)	123 456	12 345	1 234	123
ラウンドした数値(統計数値)	123 500	12 300	1 230	123

#### 7 表中の記号は以下のとおりである。

- 「0」・・・単位に満たないもの
- 「-」・・・事実のないもの
- 「…」・・・事実不詳又は調査を欠くもの

#### 8 この資料の数値は概数であり、確定値は追って刊行する『平成16年産果樹生産出荷統計』に掲載する。

連絡先：農林水産省 大臣官房 統計部  
生産流通消費統計課 園芸統計班  
電 話：(代表) 03(3502)8111 内線2837  
(直通) 03(3591)4604

この資料は、農林水産省ホームページ【<http://www.maff.go.jp/>】の「施策の動き・情報 >> 統計データ」で御覧いただけます。